

公開講義「アイヌ文化の昔と今 ～エコツアービジネスという民族運動」の開催



稚内北星学園大学メディア学部
地域創造学科 講師 藤崎 達也

はじめに

アイヌ民族の文化は北海道の宝です。しかし、差別などの歴史から接しにくい印象を持っているのではないのでしょうか。このイベントでは、例年北海道観光経済論という講義で行なっていたアイヌ民族の方の講演を公開で行ったものです。

これまでの経緯

稚内北星学園大学観光学講師の藤崎は前職（知床ナチュラリスト協会代表理事）の際、2004年に斜里ウタリ協会や札幌のアイヌ民族のグループ「アイヌアートプロジェクト」らとともに、シレットコ先住民族エコツーリズム研究会を立ち上げました。当時は知床の世界遺産登録を迎えているにも関わらず、世界では当たり前となっている先住民族の世界遺産への関わりを求めた運動としてではありましたが、アイヌ民族の行なえる持続的な活動として、エコツアーガイドを日本ではじめてスタートさせました。

この取り組みを引き継ぎ日本で唯一のアイヌ民族としてのガイド会社である「知床アイヌエコツアー」を早坂雅賀（はやさかまさよし）さんが立ち上げました。

北海道観光経済論は1年生を中心に北海道観光の現状や課題を学ぶ講義で毎年アイヌ民族の理解を深める特別講義を行なっておりました。例年、市民のみなさまから「私も聞いてみたかった」という声を頂いていたことから、3年目の今年は中央商店街の「まちラボ」を利用した公開講義として開催しました。特にアイヌ文化などを過去のものとして捉えている人が多いため、今なお引き継がれている文化活動などについて講義する必要を感じておりました。そこで、現代のアイヌ民族の暮らしぶりのうち、学生と比較的世代の近い方の例・北海道観光におけるアイヌ文化伝承の経緯・知床での先住民族エコツーリズムの取り組みなど、アイヌ民族としての起業等を中心に、楽器を使っのワークショップを交え学ぶ機会となりました。



一般の方からも大勢の参加を頂きました



樺太アイヌの伝統楽器「トンコリ」の演奏も

今後の展望

当事業は公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構「アイヌ文化活動アドバイザー派遣事業」の協力を得て実施しております。今後は、当講義に関するレポート製作・理解を深めるためのフォロー講義・観光などを学ぶものがどのようにアイヌ文化を取り入れていくかの考察・先住民族エコツアーなど、アイヌ民族自らによる取り組みをサポートする社会的な仕組みについて考察等について継続した調査研究を行う予定です。